

# 子どものリスク認知 測定ツールキットマニュアル

〈実験者用〉

追手門学院大学経営学部  
原田 章 [著]



「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」

研究代表：原田 豊(科学警察研究所 犯罪行動科学部長)

※このマニュアルは随時改訂されています。

このマニュアルの最新版は、web ページ「<http://www.skre.jp/>」をご覧ください。

# 子どものリスク認知測定ツールキットマニュアル

〈実験者用〉

## 目次

|                   |    |
|-------------------|----|
| ① このツールは何をするものか？  | 2  |
| 1.1 投影法とは         | 2  |
| 1.2 仮想街空間構成法      | 3  |
| 1.3 ツールキットの作成     | 3  |
| ② 街作成の手順          | 4  |
| 2.1 街の作成に必要なものの確認 | 4  |
| 2.2 街作成前の指示       | 4  |
| 2.3 街作成中の注意       | 5  |
| 2.4 通学路の記入        | 6  |
| 2.5 結果の回収         | 6  |
| ③ 作成された街の解釈       | 7  |
| 3.1 解釈の前提         | 7  |
| 3.2 カードの意味        | 7  |
| 3.3 台紙の仕組み        | 8  |
| 3.4 通学路の意味        | 8  |
| 3.5 解釈の手順         | 9  |
| 3.6 解釈例の紹介        | 10 |
| 3.7 おわりに          | 12 |

# ① このツールは何をするものか？

この章では、この「子どものリスク認知測定ツールキット」を使って何ができるのかについて説明します。このツールキットは心理測定で用いられる投影法をもとに開発されたものです。大がかりな装置を用いた実験やたくさんの質問項目に答えなければならないアンケート調査といったものではありません。台紙とカードを使って楽しみながら心理測定が行われるように工夫されたものです。

また、このツールは難しい統計解析の知識がなくても容易に結果の解釈ができるようにも工夫されています。小学校の先生が授業中に、もしくは、父兄が家庭で実施できるようにという目標でこのツールは作成されました。この章では、このツールをご使用いただく上で理解していただいた方がよいと思われる内容についてご説明します。

すぐにでもこのツールキットを使って実験を行いたいという方は、本章を読み飛ばして、次章から読み進めてください。でも、一度はこの章をお読みになることをお勧めいたします。

## 1.1 投影法とは

このツールキットが用いている測定法は「投影法」と呼ばれるものです。投影法とは、心理的に曖昧な刺激を用いて対象者の内面を絵や文章に投影させようとする手法です。有名なものとしては、「バウムテスト」があります。これは一枚の紙に「木を一本描かせる」というテスト（図 1-1 参照）です。描かれた木を解釈することによって、対象者の心理状態を推測することができるようになっています。

私たちは何かの問題に対処するとき、自分の内面だけでなく自分の身の回りにあるさまざまなもの（外的な刺激）を手がかりとして用いようとします。投影法では、この外的な刺激を排除することで、自己の内面を手がかりとするような問題を

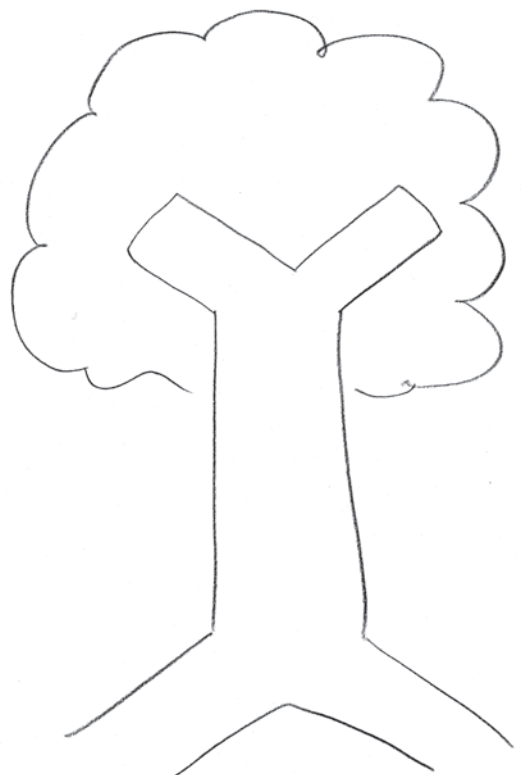


図 1-1 バウムテストで描かれた木の例

設定します。そうすることで、自己の内面を問題に対する回答として表出させようとしています。

そこで、表出されたものをどのように解釈するかについて、さまざまな研究が行われます。その結果を蓄積し、知見を増やすことによって解釈の方法が確立されていくのです。バウムテストについても対象者の心理状態と描かれる絵の関係性についてさまざまな検討がされてきました。その結果、一定の解釈基準のようなものが作成されています。

投影法の長所として、対象者が無意識に、かつ、間接的に自己の内面を表出できるという点が挙げられます。自己の内面を手がかりとするとき、私たちは必ずしも意識的にそれを行うわけではありません。したがって、問題の設定を工夫することで、測定の真意を意識させずに心理的側面を測定

するということが可能となります。ところが、表出された結果は必ずしも明確ではないため、結果から心理的側面を推測するのが一般的には困難です。これが投影法の短所になります。

このツールキットは、投影法の考え方をを用いつつ、解釈が容易になるような工夫を行っています。

## 1.2 仮想街空間構成法

このツールキットの作成に用いた手法は「仮想街空間構成法」と呼ばれるものです。このマニュアルの筆者が中心となって開発しました。この手法は、仮想街空間構成用台紙に、街構成要素カードを並べて「便利で住みやすい街」を作成させるという課題を行わせるものです。

「便利で住みやすい街」には矛盾する内容が内包されています。「便利さ」と「住みやすさ」を両立させることは難しいのです。例えば、自宅の近くに「コンビニ」があれば、生活は便利になります。しかし、深夜に見知らぬ客が集まってくるコンビニは、安心・安全の観点から言うと、自宅近くにならない方がよいと考えられます。

このように「便利で住みやすい街」を作成するためには、「便利さ」と「安全・安心」を天秤にかける必要があります。仮想街空間構成法では、この天秤をどのように考えるかというところに、個人の心理的側面やリスクに対する考え方が現れると考えています。

## 1.3 ツールキットの作成

仮想街空間構成法は、簡単な作業でリスクに対する考え方を測定することができます。これは、リスクという概念の理解が難しい子どもを対象とした測定に適していると考えられます。そこで、子どものリスク認知が測定できるように改良が行われ、完成したものがこのツールキットです。

小学校中学年以上の子どもを対象に、彼らが楽しく街を作成できるような台紙やカードを作成しました。図 1-2 は、このツールキットの作成過



図 1-2 作成過程で行った小学校での実験の様子

程で行った小学校での実験風景です。このツールキットは、このような過程を通して集められた結果を集計し、改良した結果完成したものです。

作成の過程では、大学生や小学生を対象として何度も実験を行い、得られた街についてインタビュー調査を行いました。作成された街の様子とインタビューの内容を対応させ一般的な傾向を抽出したり、必要なカードの選別を行ったりしました。一般的傾向を抽出する際には、得られた街の様子を数量化することで集計や分析を行いました。詳細については「作成された街の解釈」の章で触れますが、そこで書かれていることはこうしたデータ収集の結果得られた知見をまとめたものです。

このツールキットは、子どものリスクに対する考え方を知る手がかりになるものです。

## ② 街作成の手順

この章は、「子どものリスク認知測定ツールキット」を使って、子どもに街の作成実験を行わせる場合の手順と注意点について解説したものです。ご家庭で実施する場合だけではなく、小学校の教室で教員が実験者となって生徒に街を作成させるような場面も想定して解説してあります。この章の説明にしたがって実験を行ってください。なお、作成された街の解釈方法については、次章を参考にしてください。

### 2.1 街の作成に必要なものの確認

このツールキットは「子ども用」と「実施者用」の2種類があります。街を作成する子どもには「子ども用」のマニュアルを渡してください。

まず、街作成に必要なものを確認します。以下のものが作成者(子ども)の手元にあることを確認してください。

- 子どものリスク認知測定ツールキットマニュアル(子ども用)
- 文房具(鉛筆、はさみ、のり)

行う作業は台紙上にカードを並べて「便利で住みやすい街」を作成させるというものです。台紙とは、縦6行、横5列に渡って均等な大きさの区画が描かれているものを指します。この台紙には「自宅」という文字と「学校」の絵が描かれています。台紙は4種類あります。それぞれ5行目と6行目の区画の間に描かれているものが異なります。具体的には

- 線路と駅が描かれているもの
- 線路だけが描かれているもの
- 道が描かれているもの
- 河川と橋が描かれているもの

です。この4種類のうち、どれを使っても問題ありません。子どもがイメージしやすいものを選ぶか、子どもに自由に選択させてください。

また、カードは子ども用マニュアルの最終ページにあります。このカードは切り取って用います。

街作成は、子ども用マニュアルに書いてある手順で進めます。以下、各手順において気をつけた方がよい内容について取り上げます。

### 2.2 街作成前の指示

街を作成する前に、台紙とカードを用意します。子ども用マニュアルから必要な台紙を取り出し、カードを切り離します。そして、台紙の右側にカードを並べます。この準備作業を行っているとき、これから行う作業に対して子どもの期待が高くなることがあります。そうすると、落ち着いて作業に取り組めないという事態になりがちです。そこで、台紙やカードを準備する前に

“ この実験はみなさんがきちんとした態度でやらないと失敗してしまいます。まず、きちんと台紙とカードを並べてもらうので、よく指示を聞いてください。 ”

というような教示を行って、子どもが落ち着いて作業に望めるようにしてください。

準備ができたなら、街作成の目的を子どもに伝えます。このとき、少数の子ども(5名程度まで)を対象に行う場合であれば、子ども用のマニュアルと一緒に読みながら進めることができます。また、教室のような場所で大人数を対象として行う場合は、以下のような教示を行ってください。

“ それでは、街の作成を始めたいと思います。今からいくつかの説明を行います。説明を聞いてわからないことがあったら、聞いてください。 ”

まず、使う道具について説明します。みなさんの左前にあるのが、台紙です。この街は架空の街です。一つひとつの四角の部分を「区画」

と言います。区画と区画の間は道路になっていると考えてください。台紙には、「自宅」と書かれた区画と学校の絵が描かれた区画がすでにあります。**自宅はあなたが住んでいるところです。学校はあなたが自宅から通っているところです。**それ以外の区画はまだ白紙の状態です。

これから、この街を完成してもらいます。みなさんの右前に並べてもらったカードを見てください。このカードを街の空いている区画のところに並べてもらいます。カードは全部で14種類あります。また、1種類につき3枚ずつ用意されています。カードの絵が何を表しているかよく分からないときは、マニュアルに一覧表があるので、これを見て確認してください。もし、それでもよく分からないときは、聞いてください。

ここまでで、分からないことはありますか？

では、次に、どういう街を作ってもらおうか説明します。

**みなさんに作ってもらうのは、みなさん自身にとって便利で住みやすい街です。こんな街だったらいいなあと思う街を、置いてあるカードを使って自由に表現してください。今自分が住んでいる街のことは考えなくても問題ありません。**正解や不正解といったものはないので、みなさんが思いつくことを自由に表現してください。

ただし、いくつか守ってもらいたいことがあります。

カードを並べてもらう時間は15分です。時間内にできるだけ街を完成させてください。カードは途中で何度入れ替えてもかまいません。また、14種類すべてのカードを用いる必要はありません。カードを区画以外のところに置いたり、同じ区画に何枚もカードを置いてはいけません。**ひとつの区画に1枚のカードを置いてください。**それから、カードを並べている間は周りの人と相談したり、周りの人の作っている街を見たりしてはいけません。

では、ここまでの説明で何か分からないこ

とはありますか？ 作成中に分からないことがあったら、その都度、質問してください。

上記の教示文の中で、強調表示されている内容は特に重要な内容です。並べる時間は15分となっていますが、状況に応じて10分から20分の範囲で変更しても問題ありません。ただし、あまり長いと実験の終わりで子どもが飽きてくる場合があります。その場合は、臨機応変に実験時間を変更してください。

教示の途中および最後で質問を受け付け、質問が出ないことを確認したら、街の作成を始める合図を出してください。

## 2.3 街作成中の注意

子どもが街を作成している間は、子どもの思考を邪魔しない程度に観察しながら作業を見守ってください。自分が置いたカードが適切かどうかを子どもが確認してくる場合がありますが、善し悪しの判断を伝えることはしないでください。

また、作業中に子どもから発せられる私語は無理に控えさせる必要はありません。ただし、他の子どもの妨げになるような大きな声や他の子どもの作成している街を参考にしようとする行為が見られた場合は、静かに自分の作業を行うように注意してください。

まれに、並べるカードが決まらなくて悩むような様子を見せる子どもがいます。そのときは

“ 難しく考える必要はありません。 ”

というようにあまり深く考え込まないように教示してください。

また、カードをいきなり台紙に貼りつけようとする子どもがいたら

“ 一度全部のカードを並べてから貼り付けてください。 ”

と注意してください。すでに何枚かのカードを固定してしまっている場合は、まだ固定し終えていないカードについて

“ 残りのカードは全部並べてから貼り付けてください。 ”

と説明してください。作業を中断させて、一からやり直させることは必要ありません。

こうしたこと以外にも、街を作成中に子どもから何らかの質問が出ることがあります。その際には、子どもの思考のヒントになるようなことは言わないようにしてください。

### 2.3.1 街完成後の作業

街が完成したら、カードを台紙に固定します。子どもに以下のような教示をしてください。

“ では、街が完成したところで、カードを台紙に貼り付けます。のりを使って、1枚1枚のカードを台紙に貼り付けてください。のりで貼り付けたらもうカードを移動してはいけません。 ”

この作業のとき、これまで置いていたカードがずれてしまうとか、カードがばらばらになってしまうということがあります。そのときは、覚えている範囲で街を再現するように指示してください。

また、この作業をしているときに、気が変わって別のカードと入れ替えたいという子どももいます。このときは、入れ替えてもよいと指示してください。ただし、すでに貼り付けたカードは入れ替えられないので、貼り付けたカードを入れ替えたいと言った場合は、もう無理であると伝えてください。

## 2.4 通学路の記入

街作成の最後として、完成した街に通学路を書き込むという作業を行います。これは自宅の下の道路から学校の門までどのようなコースで通学す

るかを記入させるものです。必ず、**自宅から学校への通学路を記入させてください**。子どもに教示を行う場合は、以下のような内容にしてください。

“ では、今完成した街を見てください。みなさんは自宅から学校へ通っています。 ”

そこで、どこを歩いて学校へ行くか、鉛筆で通学路を記入してください。自宅の下の道からスタートして、校門までの道のりを鉛筆で書き込んでください。 ”

作成した街によっては、区画の中（例えば、公園）を歩いて行くような通学路を考える場合があります。その区画を通り抜けることが自然であると考えられる場合は、そのまま認めてください。ただし、あまりに日常とかけ離れているような場合、例えば、飲食店を抜けていくような通学路は再考を促してください。また、事前に区画を通り抜ける通学路を考えてもよいと**伝えないでください**。子どもから質問が出た場合に、区画を通り抜けるような通学路でもよいと答えてください。

## 2.5 結果の回収

通学路を記入したら、街の作成は終了です。子どもが作成した街を回収してください。残った子ども用のマニュアルやカードの切れ端は回収しても廃棄しても問題ありません。適当な指示を子どもにしてください。



## ③ 作成された街の解釈

この章は、「子どものリスク認知測定ツールキット」を使って作成された街をどのように解釈するかについて解説してあります。作成された街には子どものさまざまな考え方が投影されています。このマニュアルでは、まず、一般的にはどのような街が作成されやすいかについて述べ、その後、特殊な事例についてとりあげます。

### 3.1 解釈の前提

解釈を行う際、「子どもはカードを適当に配置することはない」という前提に立ちます。言い換えると「子どもが配置したカードには必ず何らかの意図がある」ということです。「便利で住みやすい街」を作成するためには、必ず何らかのリスクに対処する必要があるようにツールキットは作成されています。子どもは街を作成する過程で、自分の考えにしたがって合理的にリスクに対処しようとしています。その結果として作成された街があると考えてください。

たとえば、「お母さんと車で買い物に出かけたときに駐車場がないと困るから」という理由で、スーパーマーケットや銀行の横に駐車場を配置することがよく見られます。これは日常生活の中で駐車場がなくて困ったという体験を子どもが持っており、そうならないようにリスク対処した結果行われた配置と考えられます。子どもの根底には「なかなか買い物ができなくて嫌だった」とか「駐車場がなくてイライラする母親を見るのが嫌だった」といった経験があるのかもしれません。子どもがリスクに対して何らかの対処をするのは、そのリスクを回避しなければならない何らかの見聞や経験が根底にあると考えることができます。

そうした観点から、作成された街をこれから解説する内容にしたがって解釈してみてください。なぜ、子どもがこのような配置をしたのかが分かってくるはずです。

### 3.2 カードの意味

街の作成に用いるカードには全部で14種類あります。これらは以下のように分類されます。

**嬉しいカード** 子どもがあればいいなあと思いや  
すいカードです。具体的には、コンビニ、スー  
パーマーケット、ファーストフード、レストラ  
ン、おもちゃ屋のカードです。ただし、「コン  
ビニ」は、何か危険なことがあった場合に逃  
げ込める場所として置かれることもあります。

**遊び場カード** 子どもが遊び場として考えやすい  
カードです。具体的には、公園、林のカード  
です。

**安全安心カード** 子どもがリスクを感じる周辺に  
置かれるカードです。具体的には、交番、病  
院のカードです。交番は交通事故や犯罪に関  
するリスクを感じている場合に置かれます。  
病院は病気や怪我のリスクに対して置かれま  
す。解釈の際、これらのカードが置かれてい  
る周辺にリスクを感じていることが考えられ  
ます。また、これらのカードを配置した理由  
を子どもに尋ねることで子どもがどんなリス  
クを考えているかが分かります。もし、時間  
的に余裕があれば、「ここに交番(病院)を置  
いたのはなぜ？」といった質問を子どもに投  
げかけてみてください。

**友達カード** 子どもの友達が住んでいると考えら  
れやすいカードです。具体的には、一軒家、  
マンションのカードです。

**その他カード** 上記の分類に当てはまらないよう  
なカードです。具体的には、銀行、工場、駐  
車場のカードです。この中で銀行のカードは  
子どもにとって危険なカードだと思われるも  
のです。しかし、お金は必要であるという判  
断からよく配置されます。したがって、銀行  
カードの周辺に交番のカードがよく置かれま  
す。また、駐車場カードは、駐車場がないと

困ると考えられた場合に置かれます。銀行やコンビニ、スーパーマーケットなどのカードの周辺に置かれます。同様の理由から、自宅周辺にも置かれます。

カードの選択は、自分の過去経験を参考にしていきます。たとえば、車でかけた際に駐車場がなくて店舗に入るのに苦労したという経験があると、自分が重要だと思っているカードの周辺に駐車場のカードを置く傾向が現れます。また、両親や学校の教師などから言われたことを参考をしている場合もあります。たとえば、「何かあったらコンビニに助けを求めてはいりなさい」と言われていた場合、通学路にコンビニのカードを置くことがよくあります。

このように、子どもはリスクを下げるために自分の経験や大人の助言を参考にしていきます。街を解釈する際には、これらがどのように反映しているかを見ることが重要になります。

### 3.3 台紙の仕組み

測定キットで用いた街作成用台紙は心理的に身近に感じる範囲とそうでない範囲に分けられます。具体的には次の3つの範囲(図3-1参照)があります。

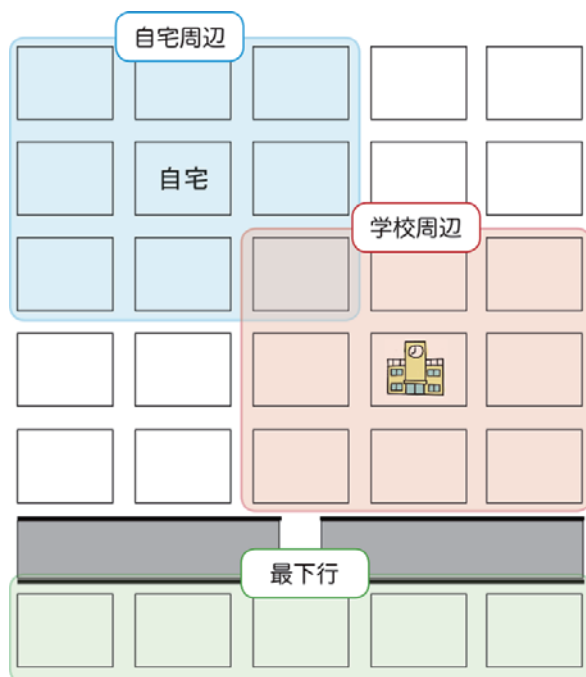


図3-1 自宅周辺の区画などの図示

1. 自宅周辺の区画
2. 学校周辺の区画
3. 最下行の区画

このうち、「自宅周辺の区画」は最も身近に感じる範囲であり、ここに置かれているカードは自分にとって「重要なもの」であるのが一般的です。次に、「学校周辺の区画」も身近に感じる範囲です。この周辺に置かれたカードは学校生活や登下校に関する内容に関係したものになります。最後に、「最下行の区画」ですが、ここは心理的に遠く感じる範囲です。ここに置かれるカードは必要性を感じつつも身近に配置するには抵抗を感じるものや自分にとって何か特別な意味を持つものになります。必ずしもネガティブなものであるとは限りません。

このような区画以外の部分にも、自宅や学校からの心理的距離を考えつつカードが配置されています。この場合、リスクを感じるカードは心理的距離の遠いところへ、そうでないカードは近いところに置かれることになるように思います。しかし、実際には「心理的距離の近いところに置いたカードは安全で安心」と考える傾向があります。たとえば、林のカードを自宅周辺に置いた場合、その林は安全なものと考えられるのに対し、心理的距離の遠いところに置かれた林のカードは危険なものと考えられるということがあります。

このことから、自宅周辺の区画に自分の欲しいものばかりを置き、街の中に交番や病院のカードを置いていない場合、リスクに対する意識が低いことが考えられます。

### 3.4 通学路の意味

自宅から学校に通うための通学路にはいくつかの経路が考えられます。子どもはそこからひとつを通学路として選びます。選ばれた通学路は一般的に「最も安全安心だ」と子どもが考えたものです。したがって、それ以外の経路は通学路にふさわしくない何かがあると考えられます。具体的には、「スーパーマーケットの前を通るのは危な

い」とか「交番の前を通る方が安全」といったことが考えられます。また、「曲がり角は危険だからできるだけ直線的な経路を選ぶ」ということもあるようです。

いずれにせよ、通学路として選んだ経路は、選択しなかった経路と比較して子どもが安全安心と考えているものです。両者にどのような相違があるかを考えることで子どものリスクに対する考え方の一端が分かります。

## 3.5 解釈の手順

では、解釈の手順について説明します。おおまかには以下ようになります。

1. 全体的な評価
2. 自宅周辺の評価
3. 学校周辺の評価
4. 通学路周辺の評価
5. 特殊な配置の有無

### 3.5.1 全体的な評価

まず最初に確認すべきことは、作成された街の中で特に多く使われているカードがないかということです。一般的には、いろいろな種類のカードを並べて街を作成しようとしします。しかし、子どもが何かに執着している場合、特定の種類のカードをたくさん配置しようとしします。このとき次のようなことが考えられます。

- 嬉しいカードや銀行カードが多い  
この種類のカードが10枚程度置かれているときは、リスクに対する意識が少し低い可能性があります。
- 安全安心カードが多い  
交番と病院のカードが6枚すべて使われているときは、リスクに対する意識が高すぎる可能性があります。何かに強い不安を抱いている可能性があります。
- 遊び場や友達カードが多い  
この種類のカードが多い場合、自分の欲求を

満たすような環境よりも人間関係や静穏な環境を指向する傾向が強いことを表します。また、リスクに対する意識は高いと考えられます。

また、一般的には、同じカードが連なって並べられることはありません。このような配置が見られる場合は、その部分になんらかの執着もしくはこだわりがあります。たとえば、工場のカードを並べて工場街を作っている場合は、工場が好きである可能性が高くなります。同様に、レストランのカードを連なって並べている場合は、食べ物に何らかの執着があると考えられます。ただし、こうしたことはリスクに対する意識とは別であるので、問題があるとは考えません。

### 3.5.2 自宅周辺の評価

次に、自宅周辺に何が置かれているかを確認します。

自宅周辺は自分にとって必要だと思っているものが配置されやすい区画です。また、置かれたものに何らかのリスクを感じる場合は、交番や病院のカードがセットで置かれている場合があります。さらに、「自宅」で発生する可能性のあるリスクに対処するために、自宅周辺に交番や病院のカードが置かれることがあります。

解釈にあたっては、全体を評価するときの内容をそのまま自宅周辺でも当てはめることもできます。自宅周辺に嬉しいカードがたくさん置かれている場合は、リスクに対する意識が低いと考えられます。逆に、いろいろな種類のカードがバランス良く配置されていれば、リスクに対する意識は高いと考えられます。

### 3.5.3 学校周辺の評価

続いて、学校周辺の評価を行います。学校周辺は「学校」を意識したものが配置されやすい区画です。たとえば、交番や病院のカードが置かれている場合は、学校で起こる危険なことや不安なことに対する対処であると考えられます。また、学校と自宅間に公園カードを置いて、「学校帰りの

遊び場」を確保するということがあります。

解釈の方法は、全体の評価と同様に進めればよいのですが、嬉しいカードで学校周辺を埋めるということはあまり行われません。逆に、そのような街になっている場合は、特別な理由があると考えられます。

### 3.5.4 通学路周辺の評価

通学路については、複数の経路が考えられることから、通学路として選択された経路とそうでない経路でどのような違いがあるかという観点から評価を行います。具体的には、通学路として選択された経路に意味があると考えられるかどうかです。たとえば、通学路の経路には交番カードが置かれているとか、公園や一軒家、マンションのカードといった店ではないカードが置かれているといった場合、リスクに対する意識は高いと考えられます。

また、通学路として選択されなかった経路にあるカードは、子どもが何らかのリスクを感じているものが含まれている可能性があります。通学路とそれ以外の経路を比較して評価してください。

### 3.5.5 特殊な配置の有無

カードの配置にはよく見られる組み合わせがあります。リスクに対する意識として重要なものは交番カードです。交番カードの周辺には、子どもが何らかのリスクを感じているものがよく置かれます。その中でもっともよく配置されるのが銀行カードです。したがって、交番カードの周辺に銀行カードがあった場合、銀行のリスクを低減させるために置かれたと考えて問題ありません。

現実的には、銀行のリスクは高くありません。しかし、子どもは銀行強盗を念頭に置くことが多く、交番でそれを守ってもらおうとします。これは子ども特有の反応であると考えられます。また、交番カードを街の中央に置く場合もあります。これは、通学路の安全のためとも言えるのですが、中央に交番を置いて街全体を守ってもらうという意識があるとも考えられます。また、交番カード

は工場カードとセットで置かれることもあります。

次に、病院カードもリスクに対する意識として交番の次に重要なものです。公園カードや学校、自宅などとセットになって配置されることがよくあります。病院カードが置かれる周辺は怪我や病気といったリスクがあると考えられているものが含まれています。これは社会情勢にも影響を受けることがあります。たとえば、食中毒問題が日常的によく言われている場合は、レストランと病院のカードがセットで置かれることがあります。

このように、交番や病院のカードは子どもがリスクを感じているものの近くに置かれます。したがって、交番や病院のカードが全く置かれていない場合、リスクに対する意識が低いことが予想されます。これは問題であると考えられます。

## 3.6 解釈例の紹介

それでは、ここまでの内容を踏まえて実際に作成された街を例に解釈を行っていくことにします。ここで紹介する事例は、兵庫県に住む小学5年生によって作成されたものです。なお、図中に水色で描かれている線が通学路を表しています。

### 3.6.1 欲求に忠実な街の例

図3-2は、自分の欲求に忠実にしたがって作成されたと思われる街の例です。自宅周辺に「おもちゃ屋」や「ファーストフード店」、「コンビニ」が配置されていることから、こういったものが自分の周りに欲しいものと認識されていることが分かります。特に、3枚ある「おもちゃ屋」すべてを自宅周辺に配置していることから、おもちゃやゲームに対する強い執着を読み取ることができます。

また、自宅の左に「林」を配置しているのは遊び場として意識されている可能性があります。ただし、自宅の左斜め上に「病院」が配置されていることから、自分が病気になったときのリスクを考えていることも分かります。

次に、学校周辺を見ると、さまざまな種類のカードが配置されています。学校の左に配置され



図 3-2 よく見られる事例



図 3-3 自宅周辺が特徴的な事例

ている「病院」カードは学校で怪我や病気が発生した場合のリスクについて考えた結果と考えられます。ただし、他のカードについては明確な意図を読み取ることは難しいように思われます。

さらに、通学路を見ると、「交番」の近くを通って行くコースになっており、交通や犯罪に遭遇することを少し意識していることが分かります。

全体的に見ると、「銀行」と「駐車場」、「交番」というよく見られる配置があったり、左下に住宅街があったり、最下行に「工場」を中心とする街があったりとバランスの取れた街作りしようとしていることが分かります。また、リスクについても意識していると考えられます。以上のことから、自宅周辺にやや自分の欲求を集めすぎている傾向はありますが、全体としてはバランスの取れた問題の少ない街になっていると言え、一般的に、このような街がもっともよく作成されます。

### 3.6.2 静穏な環境を好む傾向が見られる街の例

図 3-3 は自宅周辺が特徴的な街の例です。自宅の左右と上に「林」を配置していることに気づきます。一般的には、自宅周辺にはお店に関するものや住宅に関するものが配置されやすい傾向があり、「林」は遊び場的な意識、もしくは、自然環境を良くしたいという意識があるときに配置され

ると考えられます。また、「銀行」も自宅周辺に配置されることはあまりありません。こうした一目見て特徴的な傾向がある場合は、なぜ、そのような配置をしたのかについて尋ねてみるということが重要です。単に、自然好きであることも考えられますが、場合によっては、人間関係を煩わしいと考えているといった可能性もあります。

また、この街の全体的な特徴として飲食店に関するものが少ないということが分かります。これは作成した子どもの生活習慣と関係していると考えられます。

次に、リスクについてどのように考えているかについて解釈してみます。この例では、最下行以外の部分に 3 枚の「交番」が配置されています。そのうちの 2 枚は「銀行」とのセットになっており、典型的によく見られる配置です。もう 1 枚は学校に対するリスクを意識したものと考えられます。また、自宅と学校の間に「病院」が配置されていることから、怪我や病気に関するリスクを意識していることも分かります。

通学路を見ると、「交番」がある方を通るコースになっているので、より安全なところを通ろうとする意識が現れていると考えられます。

以上のことから、この例はリスクに関する意識があることはよく分かるのですが、やや子どもら



|  |    |  |                                                                                       |  |
|--|----|--|---------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  |    |  |                                                                                       |  |
|  | 自宅 |  |                                                                                       |  |
|  |    |  |                                                                                       |  |
|  |    |  |  |  |
|  |    |  |                                                                                       |  |

|                                                                                                                                                                           |  |  |  |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|
|  駅  |  |  |  |  |
|                                                                                                                                                                           |  |  |  |  |

|  |    |  |                                                                                       |  |
|--|----|--|---------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  |    |  |                                                                                       |  |
|  | 自宅 |  |                                                                                       |  |
|  |    |  |                                                                                       |  |
|  |    |  |  |  |
|  |    |  |                                                                                       |  |



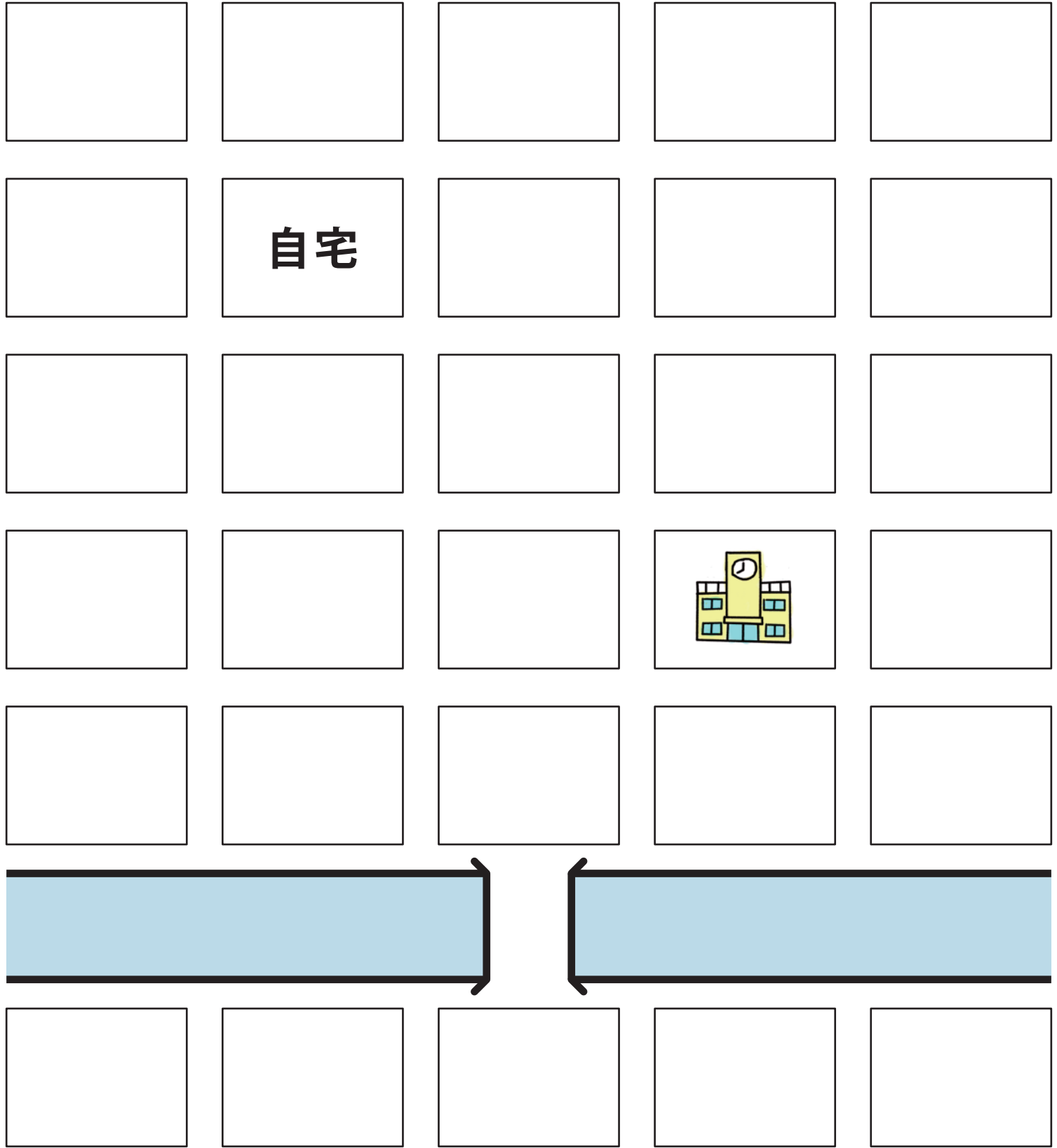
|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|

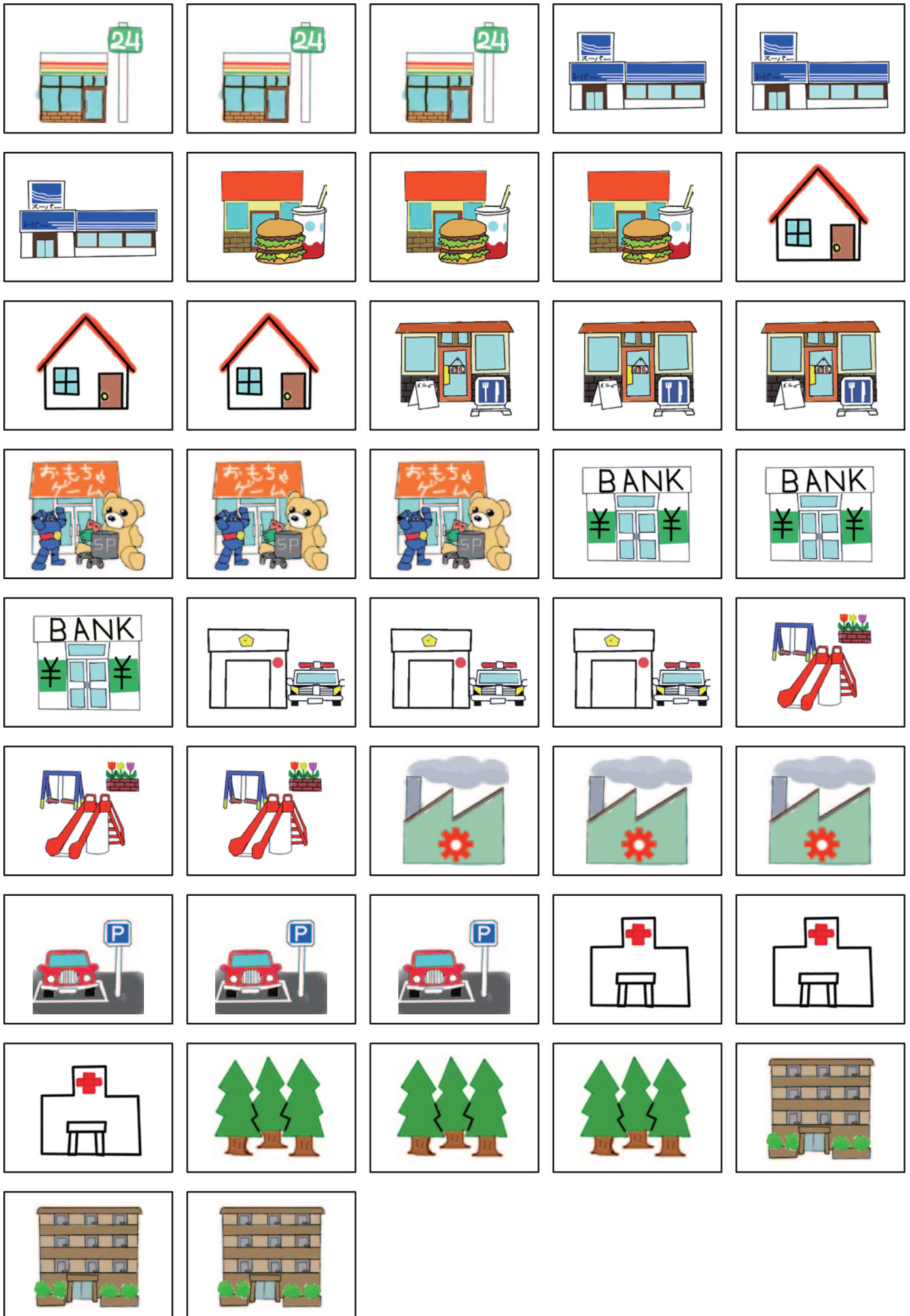
|  |    |  |                                                                                       |  |
|--|----|--|---------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  |    |  |                                                                                       |  |
|  | 自宅 |  |                                                                                       |  |
|  |    |  |                                                                                       |  |
|  |    |  |  |  |
|  |    |  |                                                                                       |  |

---

---

|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|







## ■本マニュアルについて

本マニュアルは、平成 19 年度～平成 23 年度にかけて行われた、独立行政法人 科学技術振興機構 社会技術研究開発センターの研究プロジェクト「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」（研究代表：原田豊（科学警察研究所））の研究成果に基づいて執筆されたものです。

「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」公式サイト

<http://www.skre.jp/>

---

本マニュアルを活用した研究の成果を論文等で公表する際には、下記の出典を明示してください。  
原田章（2011）「子どものリスク認知測定ツールキットマニュアル」、〈<http://www.skre.jp/>〉、12p.